

一年学年だより

No. 6 【9月号】

令和4年8月31日発行

「想像力を働かせよう」

現在、私たちは分からないことがあれば、何でもネットで検索します。検索すれば大抵のことが分かってしまうので、自分で考えたり想像したりする機会が極端に少なくなっています。いわゆる『X世代』の私が子どもの頃は、世の中、簡単には分からないことだらけでした。疑問点については、本で調べるか、テレビで知るか、あるいは誰かに聞くしか方法はありませんでした。しかし、私自身もネットでの検索に慣れてしまい、もはやスマホなしの生活は想像できません。ただこの便利さと引き換えに、大事な想像力を鍛えるチャンスを失っているという事実は、認識しておかなければいけないと思っています。

もちろん、想像するだけでは、理解できないことや解決できないことがたくさんあります。それを補うのが、知識や経験ではないでしょうか。私は数年前、特別支援教育士(S.E.N.S)という資格を取得しました。自分の感覚では想像もできない困難の中を生きている人たちが多く存在していることを知り、専門的に勉強することで、一人でも多くの生きづらさを軽減できるのではないかと考えたからです。大学の先生や医療関係者、福祉関係者など、多くの専門家から学びを得ましたが、一番勉強になるのは、当事者の話です。当事者の声に耳を傾けることで、自分自身が知らなかった世界を知ることができます。特に印象に残っているのは、ある発達障がい当事者が、『ふつう』は、こうするものでしょう!』と、学生時代に何度も叱られ、傷ついたという話です。一教師として、耳が痛い内容でした。それ以降、「ふつう」とは何だろう、そもそも「ふつう」である必要があるのだろうかなどと、よく考えるようになりました。

「ふつう」とは何でしょう。みなさんも想像してみてください。自分の想像の範疇を超えると、「ふつう」じゃなくなるのでしょうか。自分自身の「ふつう」が、必ずしも他者の「ふつう」ではありません。人の数だけ、「ふつう」があるのです。それぞれを大切に、互いに認め合える環境であってほしいと思います。そして、誰も苦手なことと得意なことがあります。凸凹を補い合い、助け合える優しい社会になってほしいと願っています。

想像力が豊かな人は、人生が豊かになります。将来を想像して準備をすれば、受験や就職にも対応できるし、人の気持ちを想像して行動すれば、きっと人間関係も円滑になるでしょう。想像力とは自分自身だけでなく、周りの人たちを幸せにすることもできる能力です。目に見えることが全てではありません。様々なことを想像し、自分で考え、行動してみましょう。(104HR担任)

「自分の意志で」

高校生としての初めての夏休み、皆さんはどのように過ごしましたか。勉強や自分のやりたいこと、部活動に取り組んだ人、課題に追われていた人、それぞれいると思います。私も高校生の頃の夏休みは、ゼミやら課題やら運動会準備やらで大変だった思い出です。ただ、それだけではありません。私にとっては自分の進路がしっかりと定まった夏休みでもありました。高2の夏休み、私は一人で大阪・京都へオープンキャンパスに行きました。正直、あのときは大学の様子を知るといよりも、大好きな京都の寺社を巡ることで頭がいっぱいでした。梅田に行ったり、二条城を観光したり……。満喫した思い出しかないですが、でも、それまで漠然と「社会科の先生になるために大学どうしようかな…」と考えていたのが、この経験を境に一気に「この土地で日本史を専門的に学びたい!」に変わりました。そして文学部を目指す決心がつき、勉強に本腰を入れたのもこの時でした。

ところで、私には高校卒業後に就職した弟がいます。その弟が最近「中高の時、何にも考えてなさ過ぎて今になって後悔してる。勉強したいから今からでも大学に行きたい。」と相談してくるようになりました。学生の頃の弟は、学問に全く興味がなく、どれだけ言っても勉強しなかったのが、正直驚いています。社会人経験を通して、そこで初めて気づけたことがあるなら、それまでの経験は決して無駄ではないと思います。でも、本人はこれまで自分の意志で選択しなかったことにかなり後悔しているようでした。

皆さんは自分の将来のビジョンが見えていますか。私は、自分の意志で進学先を決定し、教員になりました。今、この選択に後悔はないです。弟のように卒業後に新たな進路を選択することも決して遅くはないですが、今のうちに自分の意志をもってやりたいことを見つけてください。そのためには高校生活の中でたくさんのことを学び、選択肢を増やしてほしいです。自分の将来を他人に委ねて後悔することのないよう、しっかりと考えてほしいと思います。(104HR副担任)